

## 1 プロジェクト名 模擬授業—1 グランプリ

### 2 実施日程

- 8月 企画代表・副代表会議  
 9月 企画構成員会議  
 10月 ポスター・ビラの制作  
 11月上旬 ポスター掲示、ビラ配り、SNS 投稿を行い出場者募集  
 11月下旬 出場者、審査員決定  
 12月上旬 出場者と LINE@を通じて打ち合わせ  
 12月20日 学内の教室を借りて本企画を大会形式で開催

### 3 実施内容

「教育大学」という本学の特色を生かしたイベント開催をしたい、日々教育を学び、教壇に立つために研鑽している学生の指導力向上の機会を作りたい、という思いから本企画を立ち上げた。

#### ○企画代表・副代表会議

(内容)

- ①企画の進行状況確認
- ②企画プロセスの具体化 について話し合った。

#### ○企画構成員会議

(内容)

- ①賞品の候補
- ②企画広報の方法 について話し合った。

#### ○ポスター・ビラの制作

構成員の中からデザイン担当者を決定し、制作。

当初はポスター用のデザインとして制作したものをビラにも用いることにした。



←実際にポスター・ビラに用いたもの

#### ○ポスター掲示、ビラ配り、SNS 投稿を行い出場者募集

- ・柏原キャンパスの A 棟やサンクンガーデン、第 2 食堂付近の掲示板にポスターを貼った。
- ・広報担当者が昼休みや授業終わりにビラを配布。
- ・SNS に関しては、学生広報 DAIKYO PRESS に依頼をして Instagram に投稿していただく形で発信。

○出場者、審査員決定

\*出場者と連絡を取るツールとして、アプリケーション「LINE@」を利用。

- ・出場者に出場決定の連絡。今後のスケジュール進行について周知した。
- ・審査員をしてくださる先生方に参加依頼のメールを送信。以降、メールで大会について連絡を行う。

○出場者とLINE@を通じて打ち合わせ

- ・指導案の形式や提出方法について周知。
- ・適宜LINE@上で打ち合わせ。出場者から質問があれば回答しながら進めていった。

「模擬授業—I グランプリ」大会当日

○開催日時.....2023年(令和5年)12月20日(水) 12:20~14:30

○場所.....大学内B2-108教室

○参加人数.....15名

(内訳;

出場者:3組6名

※4組8人が出場予定だったが、体調不良により当日は1組欠場となった。

審査員:2名

観客:2名

運営:5名)

【大会当日の流れ】

- ①開会の挨拶、参加者の紹介
- ②1組目の模擬授業開始(教科:道徳)

【1組目の模擬授業の様子】



- ③1組目の模擬授業終了、審査員からのフィードバック

- ④2組目の模擬授業開始(教科:中学校国語)

【2組目の模擬授業の様子】



- ⑤2組目模擬授業終了、審査員からのフィードバック

⑥3組目の模擬授業開始(教科:中学校国語)

【3組目の模擬授業の様子】



⑦3組目の模擬授業終了、審査員からのフィードバック

⑧合計得点の集計

⑨結果発表及び表彰式

【表彰式の様子(優勝・順優勝・三位)】



⑩記念写真撮影、閉会の挨拶

【参加者・運営メンバーの記念写真】



【グランプリに輝いた学生2名の写真】



4 経費の使途

【配分額 80,000 円】

事 項	数 量	単 価	金 額	備 考
大判プリンタ印刷費 AI 光沢紙	9 枚	600 円	5,400 円	
B5 コピー用紙	1 パック	なし	461 円	
印刷費(ちらし フルカラー)	301 枚	6 円	1,806 円	
大教大オリジナルボールペン (水色)	8 本	204 円	1,632 円	
大教大オリジナルボールペン (緑色)	8 本	204 円	1,632 円	
賞状用紙	1 セット	なし	1,199 円	
ブルートゥーススピーカー	2 個	9,009 円	18,018 円	
ダストレスチョーク	1 箱	なし	164 円	
ダストレス蛍光チョーク	1 箱	なし	461 円	
印刷費(賞状 白黒)	8 枚	1 円	8 円	
印刷費(当日 配布用)	36 枚	1 円	36 円	
合 計			30,817 円	

## 5 プロジェクトの成果

今回、3組6人の参加者が出場し、各々の個性溢れる模擬授業を披露した。いずれの参加者も、「教壇に立つこと、教育に携わること」を目標とし、より良い授業を目指して日々熱心に取り組んでいる学生である。大会の最中に参加者が審査員からのフィードバックを熱心に書き留めたり、他組の授業を真剣に分析したりしている姿が見られた。

このことから、本大会を通して、参加者が相互に刺激を受け合い「指導力の向上」に努めている様子がうかがえ、企画概要の「学生の指導力向上の機会を作る」ことが達成されたと考える。

また、大会終了後に参加者に話を聞いた所、3組中2組が「来年度から教員になる予定」と答えた。

その中で、優勝者から「配属先の学校で自慢したい。」との声があったことから、本企画が「学生が自分の指導力に自信をつける」きっかけとして機能したといえる。

一方で、「イベント」という観点からは様々な課題が見えた。

①授業経験が多い学生ほど有利になる。→必然的に上回生が優勝しやすいシステムになってしまった。

②専門的かつ難易度の高い授業テーマを選んだ参加者→審査員に内容が伝わりづらく苦戦する結果となった。

③集客数→開催時期を神霜祭から12月下旬の平日に変更。→学内・学外ともに観客が来難い日程だったため、結果として想定より来場者の数が少なかった。

①②については、参加者の数によっては「学年別」「教科別」など部門を分けることで解決が可能だと考える。また、応募条件を事前に絞る(例:国語科教員志望、3回生以上など)ことも有効な手段と推測する。③については、運営状況を見て開催時期を神霜祭から12月下旬の平日に変更したことが、結果として観客の数に大きく響いたと推測。

また、それに伴いPRする時期や期間なども限定的なものに留まったため、まだまだ改善の余地があるといえる。

今回のプロジェクトの成果を踏まえ、今後開催する機会があるのならば、

・参加条件の再検討

・出場可能教科のベースライン制定

・開催時期とPR期間

の三点について主に改善すると、本企画がより一層教育大学の魅力を発揮するイベントへと昇華されるだろう。